

# ATIS（技術情報サービス協会）の紹介

大友 朗紀\*, 仲田 正利\*\*

ATIS（技術情報サービス協会）は設立 35 周年を迎えました。会員は、製造業の親会社を持ち知的財産情報や科学技術情報などの分野において情報サービスの提供等を事業とする正会員、特許等データベースを提供する賛助会員および特別賛助会員で構成されています。現在、44 社が参加しています。本稿では、ATIS の発展とその活動内容について紹介します。

キーワード：ATIS, 技術情報サービス協会, 技術情報サービス, 知的財産情報, 科学技術情報

## 1. はじめに

ATIS（Association of Technical Information Services；補助表記：技術情報サービス協会）は、前身である会が設立されて以来、今年で 35 周年を迎えました。異業種の会社が「技術情報サービス」をキーワードとして集まったユニークな活動をしている集まりです。以下、ATIS について紹介致します。

## 2. ATIS の設立・目的と発展<sup>1)</sup>

会の設立は、1981 年、化学系企業 8 社により、活動が始められました。会員は製造業を母体とした技術情報サービスおよび研究支援を業務とする企業で組織され、「情報社会に貢献することを目標とし、科学技術に関する会員の知識、技術の向上に努め、あわせて情報サービス産業の振興を図ること」を目的とされました。設立後は鉄鋼・金属系、電気・電子系、機械系などの企業から参加を得て、会員数は増加しました（表 1）。

会員各社とも、親会社の文献・特許の調査や管理業務が主務であるものの、同時に他企業、官公庁、その他からの調査受託も増加しています。

1985 年には会則を制定し、会の名称を「Technical Information Service Association（略称：TISA）」と決めました。その後、1990 年に「Association of Technical Information Services（ATIS）」が商標登録されたことを機に、会の名称を「ATIS」に改名しました。

加えて、会員のニーズや会社経営の変化に対応して、従来参加の会員を正会員として、2004 年に賛助会員（特許等知的財産情報や論文等科学技術情報を自らがデータベース等として提供する会社）の導入、2010 年に特別賛助会員（親

表 1 参加企業

2016年7月21日現在

正会員	
社名/団体名	親会社
(株)アイビックス	(株)デンソー
(株)アイ・ピー・イー	味の素(株)
NIITアドバンステクノロジ(株)	日本電信電話(株)
(株)エムテック	三菱電機(株)
(株)カネガテック/サーチ	(株)カネガ
キヤノン技術情報サービス(株)	キヤノン(株)
コニカミルタテクノサーチ(株)	コニカミルタ(株)
(株)サンスタップ	(株)豊田自動織機
神鋼リサーチ(株)	(株)神戸製鋼所
IXIサーチ(株)	IXボールドインクス(株)
IPFテクノサーチ(株)	IPFシステム(株)
(株)住友化学技術情報センター	住友化学(株)
住友電気知財テクノセンター(株)	住友電気工業(株)
セキスイハイムドキュメントサービス(株)	積水化学工業(株)
ゾニー知的財産ソリューション(株)	ゾニー(株)
東芝IPRソリューション(株)	(株)東芝
(株)トクサン	凸版印刷(株)
トヨタテクノロジカルディベロップメント(株)	トヨタ自動車(株)
トモキョウテクノロジ(株)	(株)NTTドコモ
日鉄住金総研(株)	新日鐵住金(株)
(株)日本電気特許技術情報センター	日本電気(株)
パナソニックIPマネジメント(株)	パナソニック(株)
(株)日立技術情報サービス	(株)日立製作所
富士通テクノサーチ(株)	富士通(株)
富士通テクノサービス(株)	富士重工(株)
富士フイルム知財情報リサーチ(株)	富士フイルムホールディングス(株)
古河テクノサーチ(株)	古河電気工業(株)
(株)三菱化学テクノサーチ	三菱化学(株)
リコーテクノサーチ(株)	(株)リコー
計 29社	

賛助会員		特別賛助会員	
社名/団体名		社名/団体名	
(株)RWSグループ		(株)IHII	
(株)ジー・サーチ		オリパンス(株)	
中央光学出版(株)		富士電機(株)	
(財)日本特許情報機構		三菱レイヨン(株)	
日本パテントデータサービス(株)			
(株)森明通信社			
パナソニックソリューションテクノロジー(株)			
(株)レイテック			
計 8社		計 4社	

注) ATISホームページより転記

会社の経営判断で正会員であった会社がそれまでの機能を維持して親会社の一部門に統合された場合の親会社）の導入を行いました。2016 年 7 月時点での会員数は、正会員 29 社、賛助会員 8 社、特別賛助会員 4 社の合計 41 社となっています。

## 3. 最近の ATIS 活動の紹介

ATIS 活動は、重要な方針・意思決定機関である定時総会・臨時総会、年間活動等の企画・具体化を行う幹事会、会員の活動の両輪となっている例会活動と分科会活動で運営されています。

とりわけ、参加会員各社の研鑽と能力向上のため例会活動と分科会活動が重要ですので、これについて説明いたします。

\* おおとも あきのり ATIS (Association of Technical Information Services)

〒651-2276 兵庫県神戸市西区春日台 9-2-33

Tel. 090-6240-6564, E-mail: gpksk262@ybb.ne.jp

\*\* なかた まさとし 日本パテントデータサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-6 住友不動産日比谷ビル

Tel. 03-3580-8021, E-mail: nakata@jpdcs.co.jp

(原稿受領 2016.7.31)

表2 最近の講演会実績

開催日	テーマ	講師
2014/9/17	知財をめぐる日本企業の課題 ～海外グローバル企業が展開する知財戦略を通じて見る日本企業の課題とは～	酒井国際特許事務所長 金沢工大客員教授酒井宏明氏
	「つながる」が実現するスマートな交通システム	大阪産業大学教授 熊澤宏之氏
2014/11/19	アセアンの最新知財状況	特許庁上席審査官(前JETROバンコク事務所知的財産部長)大熊靖夫氏
	会計士から見た子会社内部監査	公認会計士 品川陽子氏
2015/2/18	ビールの科学 ～麦とホップが生み出すおいしさの秘密	サッポロホールディングス(株) 取締役 渡淳二氏
2015/3/18	特許庁行政の最近の動向～情報とシステムから	特許庁審判課長 後谷陽一氏
	赤外線イメージセンサとその応用	立命館大学教授 木股雅章氏
2015/5/20	「生きる意味」の不況を超えて ～真に活力ある日本社会創造のために	東京工業大学教授 上田紀行氏
2015/9/16	メタゲノミクスと未来社会	東京工業大学教授 黒川顕氏
	産学連携～東京大学の知的財産活動を踏まえて	東京大学産学連携本部知的財産部長 小蒲哲夫氏
2015/11/18	ASEANの最新知財状況	特許庁上席審査官 大熊靖夫氏
	日本の魅力の海外発信 ～クールジャパン機構の投資戦略	クールジャパン機構専務執行役員 小糸正樹氏
2016/2/17	ゴルフ 飛びの科学	ダンロップスポーツ(株)顧問 野尻恭氏
2016/3/16	特許庁行政の最近の動向～知財を巡る状況と主要施策	特許庁審査第四部長 後谷陽一氏
	特許庁行政の最近の動向 ～特許庁システムと情報提供サービスについて	特許庁総務部情報技術調査官 中村敬子氏
	地方大学 生き残りの知財戦略 -鹿児島大学の知財活動-	鹿児島大学知的財産部長 高橋省吾氏
2016/5/18	中国経済ハードランディング後の世界経済	日鉄住金総研(株)チーフエコノミスト 北井義久氏

注)ATIS 技術情報サービス協会設立35周年記念誌より抜粋

### 3.1 例会活動

例会は8月を除く毎月開催され、年間11回開催しています。その内容は、代表幹事報告、講演会、施設見学、会員会社によるシンポジウム、賛助会員による商品プレゼンテーション、パネル討論などで構成されています。代表幹事報告では、会員に活動の理解を深めて頂くことを目的に、直近のATISの活動や計画を紹介しています。なお、例会後には簡単な懇親会を開催しています。講演講師など当日の関係者にも参加頂き、当日の話題はもちろん、最近の注目話題について意見交換を行い、内容の理解と懇親を深めています。

#### 3.1.1 講演会

会員会社の経営や業務に役立つ活動であるとの視点から、知的財産に関する話題、社会経済情勢、注目技術情報などを勘案して7～8名の講師候補者とテーマを幹事会にて選定し、特許庁、大学などから講師を招き、講演会を開催しています。最近の実績を示します。(表2)

#### 3.1.2 施設見学

会員会社の親会社に協力をお願いして、年間3回、持ち回りで工場や施設見学を中心に計画、実施してきました。当初、遠方の工場や施設の見学も実施してきましたが、リーマンショック以降は関東東区を中心に実施してきています。最近は見学できる工場・施設を制約することも多くなり、一般見学を公開している施設も対象に加えて行っています。(表3)

#### 3.1.3 シンポジウム・プレゼンテーション

シンポジウムは工場・施設見学とペアで実施する場合は

表3 最近の施設見学の実績

開催日	見学施設
2011/10/19	NECコンピュータテクノ(株)甲府事業所
2012/1/18	富士フィルム(株)神奈川工場小田原サイト
2012/4/18	日産自動車(株)追浜工場
2012/10/17	新日鐵住金(株)君津製鉄所
2013/1/16	NTT技術史料館
2013/4/17	浜松ホトニクス(株)中央研究所
2013/10/16	先端技術館@TEPIA
2014/1/15	(独)海洋研究開発機構
2014/5/21	キヤノンギャラリー
2014/10/15	東京税関「情報ひろば」
2015/1/21	トヨタ産業技術記念館
2015/4/15	ANA機体メンテナンスセンター
2015/10/21	東芝未来科学館
2016/1/20	リニア・鉄道館
2016/4/20	印刷博物館

注)ATIS 技術情報サービス協会設立35周年記念誌より抜粋

多いのですが、正会員の持ち回りで会社紹介、経営に関する課題やトピックスをテーマにプレゼン、質疑を行うものです。会員会社は、業界の異なる親会社を持ち、異なる親会社との意思と生まれた環境の違いなどもあり、各社による種々の課題などの意見交換から新しい気づきも生まれます。

賛助会員が行うプレゼンテーションは年に2回の機会を設けて、各社は年1回の特異商品や新商品の紹介を行うものです。ユーザーである正会員と特別賛助会員にとって、毎年進歩・改善される知的財産関連のデータベースやシステムなど情報を得る大変に良い機会となっています。

### 3.1.4 パネル討論

シンポジウムを継続してきた中で、各社共有の課題や今後の事業展開の上で新しい動きが現れてきた関心の高い課題をテーマに設定してパネル討論を行っています。5年前に開始して、年に1回のペースでこれまで5回実施してきました。(表4) パネル討論を企画した例会の参加者数は、実績として通常例会の時よりも多く、好評を得ています。

表4 パネル討論の実績

開催日	テーマ
2012/5/16	調査要員の人材育成
2013/5/15	特許調査能力を如何にして身につけるか
2014/5/21	中国特許を巡る翻訳の課題と対応
2015/5/20	中国特許文献を使用した特許調査の課題とその対応の検討
2016/5/18	ATIS会員企業におけるテレワーク(在宅勤務)の現状と課題 ～実態と課題ならびに先行事例から将来を展望する～

注) ATIS 技術情報サービス協会設立35周年記念誌より抜粋

### 3.2 分科会・研究会活動<sup>2)</sup>

分科会活動は1985年から開始し、現在までに29テーマで活動が行われてきています。分科会は会員から発案されたテーマに対して「この指とまれ」で興味を持った会員が参加するものです。参加者が十分に集まらない場合には準備期間として研究会として活動します。なお、複数のテーマが提案され同時に活動する場合、テーマ間での重複を避けるように幹事会の分科会担当と分科会リーダーとの間で調整が行われます。

分科会活動の基本は、各分科会が独立してテーマに係る業務の専門家が参加することで、より深掘した調査や検討が行われ参加者のレベルアップに大変有効な活動となっていることです。現在、活動を継続している分科会は「調査分科会」、「知財分社経営分科会」、「コーポレートサポート分科会」、「特許情報研究分科会」、「新興国の知財調査分科会」および「若手による意見交換分科会」の6つです。以下に基本活動に付加された特徴的な事例を紹介します。

経営者層が集まる「知財分社経営分科会」と担当者層が集まる「若手による意見交換分科会」とは年に1回合同分科会を開催し、双方の視点から疑問や意見をぶつけ合う場も設けるなど、同じ社内ではなかなか質問がし難いことなどもフランクな意見交換の場を作っています。

また「新興国の知財調査分科会」では、日本にて収集可能な情報調査や分析はもちろんのこと、公表された情報の実態確認や背景の理解のため、調査対象国の代表的な現地関係機関を訪問して調査を実施してきています。これまで、第一回調査としてシンガポールとマレーシア、第二回調査としてベトナムとインドネシアを訪問しています。これらの調査報告は例会でも報告が行われます。

### 3.3 対外的な活動

これまで少しずつではありますが、対外的な活動、情報発信を行ってきました。

経済産業省へのパブリックコメントの提出、特許検索競技大会の後援や会員会社からの実行委員派遣、ASEAN 知財課題整理会議(JETRO)への派遣、一般財団法人日本特許情報機構の表彰選考委員会への委員派遣や表彰候補者の推薦、独立行政法人工業所有権情報・研修館主催の研修開催案内の会員への紹介など、外部機関との連携を深めてきました。加えて、例会における講演会講師として、特許庁、大学、研究機関等から講師を招き、ATIS 活動の理解と存在感をアピールしてきています。

### おわりに

ATIS は本年度で設立35年となり、2016年6月15日新横浜プリンスホテルにて、設立35周年記念行事を開催致しました。一般財団法人工業所有権協力センター専務理事櫻井孝氏による記念講演(写真1)、引き続き記念式典が行われました。



写真1

長年にわたって ATIS 活動にご理解とご支援を頂きました関係者を招待し、また会員 OB など150名超えの参加者を得て、成功裏に終わりました。今日に至る道程を導いて頂いて下さいました諸先輩や関係者に感謝するばかりです。

まだ取り組むべき課題はつきません。会員の皆様、関係各位の協力で課題を克服し、一層の発展を図り、情報化社会に貢献する ATIS を目指します。

最後になりますが、本投稿の機会を下さいました一般社団法人情報科学技術協会会長時実象一様に御礼申し上げます。

#### 註・参考文献

- 1) 技術情報サービス懇談会設立25周年記念誌 2006年11月15日
- 2) ATIS 技術情報サービス協会設立35周年記念誌 2016年6月15日

**Report:** Introduction of ATIS (Association of Technical Information Services). Akinori Otomo (ATIS (Association of Technical Information Services), 651-2276 2-33, 9-Chome, Kasugadai, Nishi-Ku, Kobe, Hyogo, Japan), Masatoshi Nakata (Japan Patent Data Service Co., 105-0003 Mitsui Fudosan Bld., 8-6, 2-Chome, Nishishinbashi, Minato-Ku, Tokyo, Japan)

**Abstract:** ATIS (Association of Technical Information Services) is celebrating its 35 anniversary. ATIS is consists of the following 3 classified members: The first one is a “Full members” which has the business of the provision of information services in areas such as intellectual property information and scientific and technical information, which has a parent company in the manufacturing industry. The second one is a “Supporting members” that provides a database of intellectual property field and scientific and technical information field etc. The third one is a “Special supporting members”. Currently, 44 organizations are participating. In this paper, we introduce the development and the activities of ATIS.

**Keywords:** ATIS / Association of Technical Information Services / Information service / intellectual property / scientific and technical information